

新型コロナウイルス感染症流行中の心肺蘇生法について

峡北広域行政事務組合消防本部

感染防止のための基本的な考え方

応急手当を行う方の感染を防止するため、以下の点に気をつけて心肺蘇生を行ってください。

- 新型コロナウイルス感染症が流行している状況では、全ての傷病者に感染の疑いがあるものとして対応する。
- 成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わず胸骨圧迫と AED による電気ショックを実施する。
- 子どもの心停止は、呼吸障害を原因とするものが多いため、人工呼吸の技術があり人工呼吸を行う意思がある場合は、人工呼吸も実施する。

大切な「救命の連鎖」

生命の危機に瀕している状況の傷病者を救命し、社会復帰に導くためには、次の 4 つの内容が素早くつながることが非常に重要です。

1. 心停止の予防

生命の危険を生じる可能性がある症状や状態に素早く気付く。

2. 心停止の早期認識と通報

突然倒れた人や倒れている人を見た場合は心停止に陥ったと疑い、直ぐに 119 番通報し救急車を手配する。

3. 一次救命処置（心肺蘇生と AED）

その場に居合わせた人が、迅速な心肺蘇生と電気ショックを行う。

4. 二次救命処置と心拍再開後の集中治療

救急隊や医師による救命処置。

・救命の連鎖



心肺蘇生法の具体的な流れ

1. 周囲の安全を確認する

周囲が安全であることを確認し、自分の安全を確保してから傷病者に近づきます。安全が確認されるまでは近づかないようにしましょう。

※自分のマスクがあれば着用してください。

※室内の場合は、可能であれば窓を開けるなどの換気をしてください。

2. 反応を確認する（意識の確認）



呼びかけながら肩を軽く叩きます。目を開ける体が動くなどの反応が無ければ意識が無いと判断します。

※肩を叩く場合は手前（自分側）の肩を叩き、傷病者の顔との距離が近づきすぎないように注意してください。

3. 119 番通報して AED を手配する



大声で協力者を集め、119 番通報と AED の手配をお願いしてください。

※協力者が多くいる場合は、協力者同士のソーシャルディスタンスにも注意してください。

4. 呼吸の確認をする

普段どおりの呼吸をしているか確認します。

傷病者のそばに座り、10秒以内で傷病者の胸や腹部の上がり下がりを見ます。



※反応の確認と同様に、傷病者の顔に近づかないようにしてください。

※普段通りの呼吸をしていないことを確認した場合、エアロゾルの飛散を防ぐために、すぐに傷病者の口と鼻にハンカチやマスクなどを被せてください。

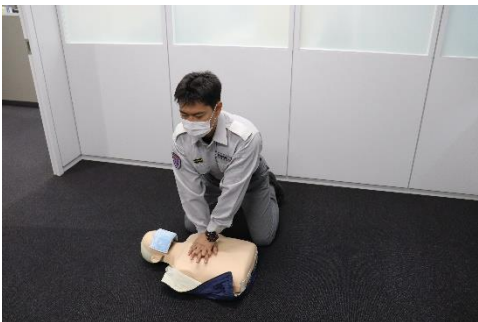
5. 胸骨圧迫をする

肘を伸ばし、胸の真ん中を約5cm沈むまで圧迫してください。

1分間に100回から120回のリズムで絶え間なく圧迫してください。

※ポイントは「強く」「速く」「絶え間なく」圧迫することです。

※小児に対しては、両手または片手で胸の厚さ約3分の1が沈むくらいの強さで圧迫します。



6. 人工呼吸（口対口人工呼吸）をする

※成人の人工呼吸は実施しません。

※小児、乳児の人工呼吸は技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思があれば実施します。

7. AEDが到着したら準備をする

AEDを傷病者の近くに置き、電源ボタンを押してください。蓋を開けると電源が入るタイプのAEDもあります。

協力者がいる場合は、1人は胸骨圧迫を続けてください。



音声流れますので、メッセージに従ってください。

絵のとおり傷病者の胸にパッドを貼り付けてください。その間も胸骨圧迫は継続してください。

9. 電気ショックをする

AEDが心臓の動きを調べ、電気ショックが必要か判断します。



※ショックボタンを押す時は、絶対に傷病者に触らないように注意してください。

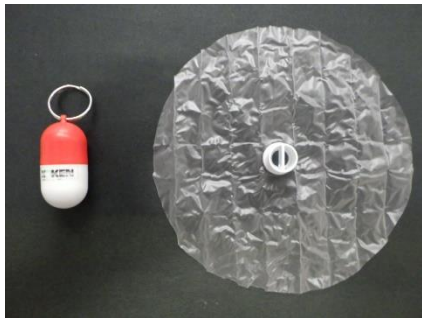
10. すぐに胸骨圧迫を再開する

電気ショック完了後は、直ちに胸骨圧迫を再開してください。

※成人は胸骨圧迫のみ実施します。

小児に対しては、胸骨圧迫 30 回と人工呼吸 2 回を組み合わせて実施します。その際、手元に人工呼吸用の感染防護具があれば使用します。

【人工呼吸用の感染防護具の例】



11. 心肺蘇生実施後の対応

救急隊到着後に、傷病者を救急隊員に引き継いだ後は、速やかに石鹼と流水で手と顔を十分に洗い、うがいをしましょう。傷病者の鼻と口に被せたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄するようにしてください。

新型コロナウイルス感染症流行中の心肺蘇生法フロー

